

東京都支部より

「台湾台北地区温浴施設視察研修会」を開催

東京都支部(林浩美会長)は10月23日から25日にかけて「台湾台北地区温浴施設視察研修会」を開催しました。東京都支部としては昨年の中国上海地区の視察に続いて2年連続の海外視察となりましたが、正会員、賛助会員合わせて14名が参加しました。

現地空港到着後、専用バスにてさっそく施設見学に出発し、まずは地元の人々

で賑わう都市型サウナの「東京三温暖」を視察しました。外観も大衆的なお店で、サウナは高温、中温の2室があり、腰までの深さがあるプールも設備されましたが、水風呂は温度が異常に低く(おそらく10℃以下)、入浴するにはかなり勇気が必要としました。また、休憩室にはビールなどのアルコール類はなく、代わりにソフトドリンク(コーラ、お茶など)が自由に利用できるシステムとなっていました。

続いて、同じ都市型サウナである「亞太サウナ」を視察しました。この店はデパートの15階と16階にあり、2000平方メートルの広さを持っています。内装は豪華な造りになっていて、内部のシステムは「東京三温暖」と同様、日本のスパ施設と大差ないものでしたが、どちらもロッカーが2段式で、とくに上段が高くてハンガーを掛けるのに一苦労する状況でした。

2日目は午前中を市内見学にあて、衛兵の交代式が見所の「忠烈祠」、世界でも指折りの所蔵品を誇る「故宮博物院」などを見学しました。午後は、台北市の北部に位置する「北投温泉」にて「水都北投温泉会館」「水美温泉会館」を見学



小ぶりの浴槽と洗い場しかなく、あまり清潔感が感じられませんでした。一方の「水美温泉会館」は温泉ホテル内のスパ施設の趣きで、大浴場の他にプライベートバス(日本で言うところの家族風呂)

があり、エステ関係が充実したシステムでした。全体的に価格は日本と同等か、多少日本より高価格のように感じました。

3日目は午前中にオプションツアーとして、蒋介石総統を称える「中正記念堂」、昔の豪農の住居である「林安泰古厝」、世界一の高さを誇る「台北101ビル」などを見学しました。

食事は、それぞれ地元の人たちの行きつけの店を選択し、1日目は台湾料理の老舗店へ、2日目の昼食は小籠包の有名店、夕食はフカヒレ、アワビ料理専門店と、グルメ旅行さながらの料理をいただきました。

貪欲な施設見学、食事ともに参加者全員大満足で、10月25日に無事帰国しました。



視察してわかった 台湾の市場としての魅力

東京都支部会長 林 浩美

今回は、都市型2タイプ、温泉型2タイプ、リゾート型とタイプの異なる温浴施設を効率よく視察でき、台湾の温浴施設全体の概要を把握できたと感じています。

繁華街にあった都市型サウナは両店とも日本とほぼ同じ構造で、マッサージなどのオプションサービスも同様、しかもほぼ同額で行われていました。面白かったのは休憩コーナーで常連客が将棋をしていて、周りのギャラリーもそれを楽しんでいた点です。昔、路地裏で見受けられた光景が温浴施設内でも繰り広げられているところを見ると、都市型サウナは台湾の人々の暮らしの中で独特のリラックス空間を形作り、定着していると感じました。

デパートの上階にある施設「亞太サウナ」に行った時、エレベーターで一緒になった若い現地女性は、私たちが日本人だとわかると日本語で軽く挨拶してくれたので驚きました。ガイドによると、台湾の人は豊かになった今日でも、日本に対して精神的にも物質的にもある種の憧れを抱いているそうです。かつて日本人にとって海外旅行というとハワイであったように台湾人の海外旅行先の第1位は日本で、日本女性が気軽に外国旅行をするのと同じように、年に何度も日本に旅行して文化を取り入れることがある種のステータスになっている、とのことでした。

視察を終えて感じたことは、多様なコンテンツを持ちビジネスを模索する日本の温浴企業にとって、台湾は市場として魅力があるのかもしれないということです。



ました。「水都北投温泉会館」は、温泉、サウナ、ジャグジーなどの施設は男女共用の水着ゾーンにあり、男女別になったスペースには

関西支部より 年内の行事予定

関西支部(洪里勝利会長)は、11月14日に「第36回 合同親睦ゴルフコンペ」を開催します。このコンペは秋の恒例となっている行事で、今年は京都の名門・田辺カントリー倶楽部にて、20名が参加して腕を競い合う予定です。

また、12月17日にはニュージャパン観光にて、理事会・例会を予定しています。理事会では、来年6月4日の全国総会の準備について、第1回検討を行う予定です。例会では、7～11月期の情報交換と、年末・正月および正月からの企画などを話し合う予定です。

なお、同日は今年最後の関西支部の行事として、賛助会員と合同で忘年会を開催します。こちらは「敦煌」にて約80名が参加する予定になっています。

東京都支部より

「第42回 店舗責任者勉強会」を開催

東京都支部は10月30日に恒例の「第42回 店舗責任者勉強会」を開催し、正会員37名、賛助会員16名が参加しました。今回は、浴室、休憩室、仮眠室等を最近リニューアルしたばかりの「池袋プラザ」(豊島区)を体験入浴会場として見学させていただきました。

恒例の「知りたい情報」では、7～9月度の各対前年同月比のデータについて検討しました。7月度は全体に低調であり、8、9月度は堅調に推移し、とくに飲食部門のがんばりが目立っていました。

また、昨今問題になっている従業員不足について、各店舗の募集状況について媒体、時給、各種手当、シフトの組み方などについての発表や質

問が行われました。

続いて、「電力小売自由化と電気料金削減について」と題して、電力供給の仕組みや切り替えメリットについて、イーレックス(株)・田中マネージャーより説明をしていただきました。これについてはメリットの期待できる店舗とできない店舗があるため、個別に問い合わせのうえ検討することになりました。

最後に、賛助会員のオカ(株)、明治乳業(株)、(株)

千代田、(株)サンオートよりそれぞれプレゼンテーションが行われました。

勉強会に引き続き懇親会が開催され、賛助会員との交流や勉強会の課題について話しきれなかったことなどで盛り上がり、盛会のうちに終了しました。



お知らせ 賛助会員の(株)アンドウコーポレーション(代表取締役 安藤健二郎)は下記へ移転しました。

〒463-0003 名古屋守山区下志段味熊田 443-1

TEL: 052-739-0230 FAX: 052-739-0231

今年のテーマ:時代は変わった。マーケットが変わった。都市は、街は、生活・遊び・サービスはどう変わればいいのか。

来る12月4・5日に、各種経営情報誌を発行する総合ユニコム(株)(本協会賛助会員)主催のビジネスフェア「レジャー&サービス産業展2007」が東京ビッグサイトで開催される。

今回で3回目を迎えるこの産業展は、出展企業が多様化する少子・高齢社会に求められるNEWレジャー、NEWビジネスをさまざまな角度から提案するものだ。特設テーマ企画として、“最先端「省エネ機器・システム提案」ゾーン”を設け、施設のコスト削減、省エネルギーおよび地球環境へ貢献する機器・システムの展示を行う。

また例年好評な最新の開発・経営情報を発信する産業ワークショップとNEWビジネス事業開発セミナーも併催する。次代の開発とマーケットトレンドを予測し、新しいビジネスを創出する開発と投資の事業展開を推進するにあたり、参考となるだろう。



- ▼会期 12月4日・5日 10:00～17:00
- ▼会場 東京ビッグサイト 西3・4ホール
- ▼入場形式 限定招待制
- ▼出展社数 137社
- ▼同時開催 レジャー&サービス産業NEWビジネス事業開発セミナー2007(全18講座1講座3000円) / レジャー&サービス産業ワークショップ2007(全16講座 無料 事前登録制)
- ▼概要 <http://www.sogo-unicom.co.jp/pbs/fair/lis/2007/>
- ▼問い合わせ先 総合ユニコム(株)レジャー&サービス産業展2007事務局(担当:高木・天野)
TEL:03-3563-0420(直通)
FAX:03-3564-2560

サウナ あれこれ 延長戦

第28回 日本のサウナ史⑤ ラドンセンター・クアハウスの時代 中山真喜男 サウナ・スパ管理士講師

女性サウナが少なかった時代、現場サイド(支配人)の間では女性サウナはやりたくないという声が多くありました。理由は、男性サウナでは起こらないつまらないトラブルが多いというわけです。例えば、サウナ室で座る場所の問題でいさかいが起こる、化粧品がなくなる、トイレトーパーを持っていかれる等々です。

女性にサウナの良さを知らしめたひとつとして、スポーツクラブの力が大きかったと、私は思っています。スポーツクラブができると、男女の浴室ができ、そこには必ずサウナが付いたからです。

あるときスポーツクラブの責任者の方に、女性サウナでは前に記したような問題があるけれど、スポーツクラブは会員制だし客層も違うようだからこのような問題はないでしょうと聞きましたら、同じように困っていますとのことでした。この話は古い話ですので、今はどうなのかは知りません。

- 昭和50(1975)年 日本サウナ連合会結成
- 昭和51(1976)年 日本クアハウス連絡協議会発足(後のクア協会)
- 昭和52(1977)年 船橋ヘルスセンター閉鎖
- 昭和53(1978)年 日本サウナ協会と改称

- 昭和55(1980)年 相模健康センター開業
- 昭和59(1984)年 中部健康センター七宝開業

昭和50年頃からラドンセンターが話題にのぼり始めました。ラドンというのはラジウムから発生する気体で、ラジウムはキュリー夫人によって発見された天然放射性元素です。このラジウムを含む砂礫や放射性同位体(別名ラジオアイソトープ。すべての元素について放射性同位体が人工的に作られている)を使って人工的にラジウム温泉を作り、それを施設の目玉にしたのがラドンセンターです。ラドン浴槽をガラスの温室のように囲った例が多いかと思いますが、これはラドンガスを呼吸器系統から吸収するのが一番効果的とされているためです。

日本で昔から有名なラジウム温泉として知られているのは、鳥取の三朝温泉、兵庫の有馬温泉、甲府の増富温泉などがあります。秋田の玉川温泉もラジウム泉です。

業界の中で「クアア」とか「クアハウス」という言葉が聞かれるようになったのも昭和50年前後ではなかったかと思いますが。この頃は「クアアって何?」という時代で、業界の中でも本当に知っていたのは、当協会の理事で東京都サウナ協会の

会長でもあった故・今井義晴先生だけではなかったかと思えます。

今さら言葉の正誤を言うつもりはありませんが、日本では保養・休養のための各種浴場施設のある建物をクアハウスと呼んでいます。本場のドイツではこうした建物をクア・ミッテルハウスとかバーデハウスと呼びます。本来のクアハウスは温泉保養地の管理事務所の性格を持ち、集会場や会議室、レストラン、時にはカジノまで備えた建物のことを言います(詳しくは、故・今井先生の話や書かれたものからの孫引きになりますが、いま流行語のスパとも関連しますので、機会をみて書かせていただくつもりです)。

昭和61年のある新聞にはURBAN・NOW(いま都で流行るもの)としてクアハウスが取り上げられ、全国12軒の店名が紹介されています。昭和63年に厚生省より「健康増進施設認定規定」が告知されました。アスレヘルスタイプとクアハウスタイプがあります。

驚いたことに、日本で最大手のアスレチッククラブに聞きましたら、認定制度は知っているが受けていないとのことでした。クアハウスについては制約も多く、日本クアハウス協会の加盟店は29店でした(平成18年調べ)。

これが辛口、うまさが違う。
洗練されたクリアな味・辛口。
SUPER "DRY"
Asahi 生
350ml

ビール飲酒は20歳になってから。ほどよく、楽しく、いいお酒。あきかんはリサイクル

KIRIN
KIRIN'S ORIGINAL BREW
DRAFT BEER
KIRIN BEER
一番搾り

キリン 一番搾り
飲酒は20歳になってから。お酒は楽しく、ほどほどに。

ナノテクノロジーによる水と湯
電子波処理装置・TeO(テオ) 水専用装置

スケール減少とコストダウン
保湿、浸透作用アップ
ナノテクの湯で集客増加をはかりませんか。

- 浴槽、貯湯槽、配管内の●シリカ●カルシウム●赤サビなどと共に、●汚れ●ヌメリなども剥離、減少。
- 保湿作用、浸透作用がアップ(肌にやさしい水と湯)
- 塩素臭を大幅に緩和(残留塩素の効果はのこします)
- 菌の増殖抑制(防菌作用) ※周辺機器の使用年数や、水の質によって作用の程度が異なります。

燃料専用装置 ボイラーの燃料費が約8～10%減少。スス、スラッジ、排ガスも減少します。

販売、施工から水のアドバイスまで
テクノ・オーシャン
Tel. 072-779-1475 Fax. 1401
〒664-0873 兵庫県伊丹市野間6-2-12
テクノ・オーシャン株式会社
<http://www.tekuno-ocean.com/>

タイ視察レポート

今年も盛りだくさん 学ぶことの多かったタイ

「タイランドヘルス&ビューティーショー 2007」には、日本から同行した同大使館プラーター女史のアテンドにより、約500社/700ブースからなるスパ製品やスパの飾り付けなどの展示をゆっくりと時間をかけ視察したが、年々拡大するスパ市場に伴い、展示内容も充実していた。

また、マッサージ発祥の地であるワット・ポー学院では、人気の高いタイ古式マッサージを90分間体験した。参加者の希望で帰路は小型の水上バスを貸し切りにし、波しぶきを浴びて大騒ぎになった。

3日目は市内のデイスパを体験。その後、北へ700km離れたタイ第2の都市・チェンマイへ航空機で移動し、高級ゴルフ場内の「バンヤンツリースパ」「オアシス・スパ」にて全身オイル&ハーバルボールマッサージを受けた。このクラスになると接客の気遣いや手技も一流で、リラクゼーションサービスを商品化する専門家として学ぶ点が多々あった。

チェンマイは時間がゆっくりと流れている感じがする古都で、独特の雰囲気にもまれたリゾート空間。その体験レポートを参加者の中野真由美さんが寄せてくださった。

旅の3日目。華やかで刺激的なバンコクから、次の目的地チェンマイへ。チェンマイは1000km級の山々に囲まれた山岳地帯である。ラオスやミャンマーの国境にほど近く、その奥地には言葉や風習が異なる21もの山岳民族が住んでいる。

マッサージオペレーター4名を引き連れての我々ニュージャパン梅田グループは、めったにない機会だからとフォーシーズンズホテル・チェンマイを指定した。そして24ページにもわたる大量のコースアクティビティのメニューから「chiang dao elephant camp」に決めた。

ホテルから北へ30分のチンダオエレファントキャンプは、象のために真夏と雨季を避け気候の良い時期にしか営業しない。長い吊り橋を渡ると「象にエサをやりましょう」のコーナーがあり、バナナをもらって気分を良くした小象達は、川で水浴びのショーを見せてくれた。小さな象はすこぶる可愛い。この後、陸地で大人の象によるセカンドショーがあった。丸太運びやお絵描き(鼻で器用に描いた)、捨てられたペットボトルをゴミ箱に捨てるなどというエコをテーマにした心休まるショーもあった。

ショーの後は2m以上はある象に乗ってジャングルの中をのっしのっしと歩くこと1時間。ジャングルの中には小さな小川もあり、そのせせらぎに癒された。日中は太陽の光で焼けるように暑いが、このジャングルでは肌寒いほどだ。山岳民族のお土産物屋兼休憩所であつたん休憩して帰る。帰るも象に乗ってジャングルを抜け、川の中を歩いて帰った。川の真ん中を流れに逆らってゆっくり登っていく経

験は初めてで、私を含め皆、童心に返って喜んだ。ランチ休憩が終わると、竹で出来た筏(いかだ)で登って来た川を下った。川の両側は壮大な緑。不便な場所だが来る価値はあった。

癒やしのチェンマイ 梅田サウナニュージャパン支配人 中野真由美

ホテルに帰ると本職の偵察、否、視察だ。我々はタイ式マッサージとオイルマッサージに分かれて受けた。ホテル内のスパは、広大な敷地の一番奥に別棟で建てられている。白い壁に高い天井、銅製の花入れには黄色の菊が飾られ、中央にはロウソクが灯されていた。暖炉には夜になると火がくべられる。マッサージルームは、赤いレンガ色の漆喰の壁に、ベッドにはバティック(布)が掛けられていた。淑やかで優しいタイ人によるマッサージはとても優しく丁寧でリラックスできたが、いささか部屋が寒かった。タイのマッサージ店に共通していえることだが、どこもクーラーを効かせ過ぎだ。日本人は毎日香辛料や肉類をとっていないので世界でも寒がりな民族であると思うが、本当に寒かった。

タイ式マッサージを受けたオペレーターは、正直なところ、街中の忙しいお店のほうが格段に技術は上だと口を揃えて言っていた。しかし、ここは丁寧なサービスについては最高に素晴らしかった。

今回のタイで一番うまいなあと思ったのは、バンコクの日本人街にあった「有馬温泉」というマッ



サージ屋だ。あるオペレーターはお客様からタイに行くなら体験してくるよう勧められたという。私にあたった人は若いのに本当にうまかった。この経験に基づき翌日は街のマッ

サージ店に向いた者もいたが、その結果は学ぶものが多かったと言う。その成果は梅田ニュージャパンの大石と幹奈で一度お試しくださいます。

仕入れ・展示会の買い付けに大満足

私は連日の仕入れ(タイ式マッサージの部屋に置く飾り物やユニフォームの素材など)で充実した日々であった。バンコクの展示会ではフォーシーズンズホテルに卸している Baan Kham Paya Co.,Ltd. から、ハーブボールを買い付けた。オーガニックのもので優しい香りがする。他には香ばしいゴマの香りがするセサミの顔用ハーブボールも買い付けた。バンコクではプラーターさんの素晴らしいアテンドにより、仕入れたいものすべてを良い価格で手に入れた。心より感謝申し上げます。また、買い付けによる途中個別行動を許して下さった若林事務局長はじめ協会の皆様にも厚く御礼申し上げます。

タイ式マッサージは、技術だけでなく「人の温かさ」を感じることができた。これが何よりの癒やしなのかなと気づかされた、そんなタイでの日々であった。

今回の視察で訪れた主なスパ施設【タイスパ協会推薦施設】

- ①ポタライ・タイ・ウェルネス・センター【バンコク】
ハーバル・マッサージ120分+ランチセット 2750バーツ(約9200円)
- ②アンサー・スパ(バンヤンツリー)【チェンマイ】
クラウンキング・グローリー・マッサージ(頭+肩こり)30分 1500バーツ(約5000円)
- ③チェンマイ・オアシス・スパ【チェンマイ】
ランナービューティパッケージまたはランナーファッションパッケージ120分 1700バーツ(約6000円)



metos FLOAT PACK

それは、最上級の深い眠り

メトスフロートパックとは...

温熱療法と自然療法のトリートメントを組み合わせたボディパックです。暖められたウォーターベッドの上で、オイル・クリームを塗った体は、ラップで優しく包まれ、水の上に浮いているような平和な静寂な時間があなたに訪れます。

解き放たれる緊張

通常のベッドでのボディトリートメントと違って、同じ姿勢でラップされていても固定された感じではなく、水の上で浮いたような感覚を味わいながら、心も安らぎ、すべての緊張から解き放たれたような開放感とともに、温熱効果により筋肉や関節をリラックスさせる効果があります。コンパクトなサイズなので、(L:2210×W:1020×H:650)部屋にすっきり納まり、空間を有効に使えます。

※現在、サウナ協会会員などを対象に、セラピストによる本格的トリートメントの体験予約を受け付けています。
お申し込みは、TEL:03-3542-0452(担当/奥村)まで(要予約)。

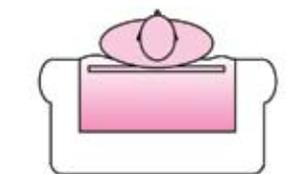


Fig: Before
フロートパックの上に横になります。

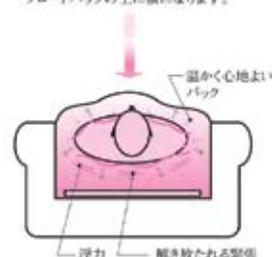


Fig: It floats comfortably.
身体が沈み込むと同時に、温かく包み込まれ、全身が浮いているようになります。



株式会社メトス metos.co.jp

●東京都中央区銀座3-11-5 03-3542-0333 ●札幌市中央区大通東7丁目 06-0041 011-272-3201 ●仙台市泉区泉中央3-18-4 981-3133 022-371-3550
●大阪市西区本町1-6-6 06-550-0004 ●名古屋市千種区種田2-18-6 0464-0074 052-763-2811 ●福岡市博多区比恵町16-26 812-0014 092-471-5801